



岩崎灌園『本草図譜』に描かれた附子

## 附子 (ブシ)

附子はキンポウゲ科のオクトリカブトまたはハナトリカブトの塊根で、通常、加工により減毒したものを用いますが、いずれも劇薬として扱われます。紀元前から東西を問わず、毒薬や治療薬として利用されてきました。中国最古の本草書『神農本草経』には下品(治病薬)の部に収載されており、風寒の邪気による咳嗽の頻発を治し、中を温め、切り傷を治したり、腫瘍や血のかたまりを破り、冷えによる痛み、足の骨折、膝痛などを治すことが記されています。日本では、飛鳥時代から薬用として用いられたとされています。現在では、牛車腎気丸、真武湯、八味丸、麻黄附子細辛湯などの漢方薬に配剤されています。

## 東医研設立50周年を迎えて

所長 小田口 浩



皆様、待合室の掲示等でお気づきの通り、北里大学東洋医学総合研究所(以下、東医研と呼ばせていただきます)は設立50周年を迎えました。本紙の新年号でもご紹介させていただきましたが、東医研は国内の東洋医学関係者の大きな期待を背負って設立され、以後現在に至るまでの50年間、一貫して質の高い漢方・鍼灸医療の提供と東洋医学の発展に資する研究を行なって参りました。東医研が設立されたのは1972年の6月27日であり、ちょうど50年が経過した7月始めに式典の開催を予定していたのですが、新型コロナウイルス感染症の蔓延と重なったため残念ながら中止となりました。

さて、東医研が設立された50年前は、明治時代に古くさい医学として切り捨てられた影響がまだ残っており、漢方医学を実践する医師はごく一部にとどまっておりました。私が医学部を卒業したのは35年前ですが、その当時であっても漢方薬を処方する医師はほとんど見かけませんでした。何しろ私自身、学生時代にまったく漢方の教育を受けず、研修医時代においても漢方薬を使うという発想はほとんどありませんでした。しかし漢方医学の必要性が徐々に認識され、多くの医師が漢方薬を処方するようになり、現在では医学部のすべての学生が漢方を学ぶ時代になっております。なぜ多くの医師の間で

漢方が広まったのでしょうか。

簡単に言えば、どこか身体の一部だけに注目する西洋医学だけでは種々の症状に対応できないことが明らかとなったからです。西洋医学は、「あなたの症状の原因はこれです」とはっきり診断し、その原因に対して筋道の通った治療を施します。道路で言えば、症状の元となっている治療のゴール地点を診断し、そこに向けて直線的で速い道を作って進んでいくような治療を行ないます。直線的な道を作るには山野を切り開いたり、時にトンネルを掘ったりしなくてはならず、はっきりした効果を得るために種々の副作用を覚悟しなければならない場合もあります。また、身体のおちらこちらにたくさんの症状がある場合はゴール地点に向けた道をたくさん作る必要があったり、そもそもゴール地点を診断できなかったりする場合があります。このような課題に直面した医師たちは、直線的でない治療法の必要性を実感する一方で、医療の現場において漢方医学が現実に役立つ場合が多いことも再認識しておりました。これらの事情が相まって今日の漢方の普及につながったと考えられます。

漢方では直線的で速い道を進むような治療ではなく、くねくね蛇行した道を進んでいろいろな地点に寄り道し、それにつれて全身が調和し、種々の症

状が改善していくようなイメージの治療が行なわれます。このくねくね道は時に回り道ともなり、そのまま進むんでいいのか確信をもてなくなる場合もあるでしょう。しかし漢方治療の道は、自然の恵みである生薬を利用して身体と相談しながら進む穏やかな道です。また我々の先人がたくさんの症例を経験して築き上げた叡智に基づく信頼性の高い道でもあります。たとえ科学的に明快な理屈はなくても十

分に根拠のある道ですし、科学だけを根拠にする現代医学では太刀打ちできない病気に対応可能な場合も少なくありません。まさに急がば回れの精神です。

50周年の節目を迎えた東医研は、これからも漢方・鍼灸治療のすばらしさをさらに多くの方々に伝え、種々の症状に悩む患者様のお役に立てるよう精進してまいります。

## 最新 漢方研究の世界

### コロナ後遺症の治療手段として注目されている漢方薬

EBMセンター 室長 関根麻理子



新型コロナウイルス感染症のパンデミック発生からもうすぐ3年になります。感染拡大に伴い、次々に出現する変異株。変異により症状や感染力、重症化リスク、ワクチン・治療薬の効果などに影響を及ぼすこともあり、終わりの見えない闘いが続いています。

また、感染性が消失したにも関わらず、急性期から持続する症状や回復後に新たに出現する症状などの罹患後症状（コロナ後遺症）が、日常生活や仕事・学業などへ支障をきたす場合があります。社会問題になっています。海外での45の報告（計9,751例）の系統的レビューでは、コロナ診断・発症・入院後2ヵ月あるいは、退院・回復後1ヵ月を経過した患者の72.5%が何らかの症状を、さらに別の海外の57の報告（計25万例）の系統的レビューでは、診断あるいは退院後6ヵ月かそれ以上で、54%が何らかの症状を有する、との報告もあります。厚生労働省が、医療従事者向けにコロナ後遺症について最新の科学的な知見等を盛り込み、臨床現場で活用できるようにまとめた「罹患後症状のマネジメント」がありますが、コロナ後遺症は倦怠感などの全身症状や、息切れなどの呼吸器症状、記憶障害や集中力低下などの精神・神経症状、その他に嗅覚・味覚障害などの症状と多彩であり、いまだ不明点が多く、コロナ後遺症に対する治療は、対症療法が中心となっています。

現在、漢方薬はコロナ後遺症の治療手段として期待されています。それは、漢方薬での治療は病気の原因がわからなくても、その人の証（しょう；問診・舌診・脈診・腹診などの漢方医学的な独自の診

断方法に基づいて決まる、いわば「タイプ」のようなもの）が把握できれば、対応できるからです。ただし、漢方薬が役立つことを示すデータが十分にありません。そこで当研究所は、日本東洋医学会と連携して2021年7月よりコロナ後遺症に対する漢方薬の効果进行调查する臨床研究を実施しています。本研究はコロナ後遺症が1ヵ月以上続いている患者様を対象とした研究で、漢方薬服用群と漢方薬非服用群を比較することで後遺症に対する漢方薬治療の有効性と安全性を評価する観察研究です。観察研究とは、主に患者様の診療記録（カルテや検査結果など）のデータを利用させて頂いたり、症状に関するアンケートなどにご回答頂いたり、「治療経過の観察」の集積から医学の発展につながる新しい知見を得るための研究です。なお、研究に参加することで、患者様に必要な治療を制限することや、特別なお薬（または、お薬の候補となるもの）を一定期間服用頂くような研究ではありません。伝統医学である漢方医学は、昔からの一人一人の「治療経過の観察（個の症例）」の蓄積により発展してきた医学ですから、観察研究はとても大切な研究なのです。

本研究は継続実施中であり、まだ研究結果を報告することができませんが、少しでも早くコロナ後遺症で悩まれている患者様に最良の医療を届けられるよう、そして、医療の現場、社会に貢献できるよう取り組んでおります。なお、本研究は学校法人北里研究所が実施している「COVID-19対策北里プロジェクト」の漢方プロジェクトの一環として実施しています。

## 生薬豆知識 **ブシ** 附子

薬剤部 上之原 静 佳



オクトリカブトやハナトリカブトはキンポウゲ科トリカブト属の植物で、母体に着目すると一年草ですが、当年の塊根から伸びた短い地下茎の先に子根ができてこれが翌年に発芽する擬似一年草です。日本には約30種のトリカブト属植物が自生しますが、オクトリカブトは北海道と本州北部に分布し、高さ60cm~2m、夏から秋頃には長さ8~20cmの円錐花序に3~5cmのかぶと状の花を3~10個ほど咲かせます。

植物全体に非常に毒性が強いアコニチン系アルカロイドが含まれますが、特に塊根（母根・子根）に多く含まれます。アコニチン系アルカロイドを摂取した場合、中毒症状として、口唇や舌の痺れ、手指のしびれ、嘔吐、腹痛、下痢、不整脈、血圧低下などを起こし、けいれん、呼吸不全（呼吸中枢麻痺）や不整脈による心停止に至って死亡することもあります。芽生えの葉は掌状で、食用となる野草のニリンソウやモミジガサの葉とよく似ているため、山菜採りなどで誤食し、死亡例も発生しているため、厚生労働省が注意を呼びかけています。

一般にオクトリカブトまたはハナトリカブトの子根を加工し減毒したものを、生薬の「加工ブシ」といいます。当施設の「附子」は、北海道で栽培されたオクトリカブトと唐種のハナトリカブト由来の加工ブシです。秋に子根を種イモとして定植すると、翌年これが母根となり、春に子根が形成され、夏にかけて個数が、秋までに重量が増加していきます。肥大した子根を秋に収穫し、乾燥、高圧蒸気処理により加工します。加工前は、猛毒のアコニチン系ジエステルアルカロイド（ア

コニチン、ヒパコニチン、ジェサコニチン、メサコニチン）を含みますが、高圧蒸気処理すると、これらの成分が加水分解されて、モノエステルアルカロイド（ベンゾイルアコニチン、ベンゾイルヒパコニチン、14-アニソイルアコニチン、ベンゾイルメサコニチン）となることで、毒性が数百分の一となり、強心、血管拡張、抗炎症といった作用を示すので、生薬として安心して使用できるようになります。その他の薬効成分としては、低毒性のアチシン系のアルカロイドとして、強心作用を示すヒゲナミン、強心および血圧上昇成分を示すハイゲナチン、そして神経障害性疼痛を改善する作用を示すネオリンなどが含まれています。

この高圧蒸気処理による加工で得られる加工ブシは、日本薬局方ではブシ1と称し、これ以外に、食塩、岩塩又は塩化カルシウムの水溶液を浸せきした後、加熱又は高圧蒸気処理により加工する方法（ブシ2）、食塩の水溶液に浸せきした後、水酸化カルシウムを塗布することにより加工する方法（ブシ3）が定められています。これらの加工法の違いや、栽培方法により、総アルカロイドの成分含有率も変わってきますが、当施設が取り扱う「附子」は総アルカロイド含有率が高く、作用の強さを期待できるブシ1を用いています。

トリカブトはとても美しい花を咲かせることから、現在では観賞用の苗や切り花も多く流通しています。地上部も有毒なので、ご自宅で栽培されたり、お花を生ける際は、お子様やペットが口に入れない様に、そして触れる際にはビニール手袋を着用するなど、気をつけてお楽しみください。

## ツボの効用 **外反母趾に効果的なツボ**

鍼灸診療部 近 藤 亜 沙



10月10日はスポーツの日です。体育の日でなじみのある方が多いと思いますが、2020年からスポーツの日に改名されました。1964年の10月10日に、東京でオリンピックが開催されたことを記念し「国民がスポーツに親しみ、健康な心身を培う日」として、国民の祝日が制定されたそうです。身体を動かして、心身ともに元気になるというのは言葉ではわかっていますが、身体を動かすことが苦痛ということもあります。外反母趾はそ

の1つです。痛みで歩くのが億劫になる外反母趾は、母趾中足趾節関節がくの字に変形している状態ですが、進行すると、第1中足骨の内反、扁平足、開帳足などを伴い、互いに影響し合います。それに外的要因が加わり、痛みを引き起こします。靴の圧迫が原因の一つと考えられていて、下駄をはいていた時代には無縁の病気だったそうです。生活の欧米化に伴い、日本でも増えてきています。ファッション性を重視したハイヒールを履

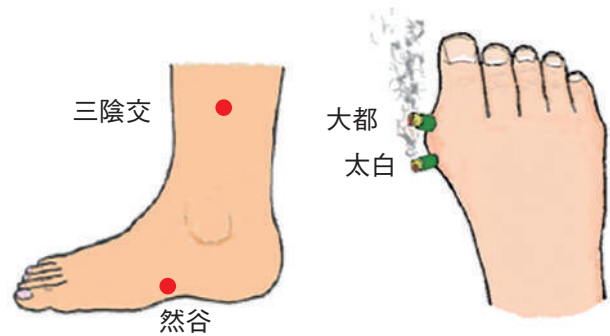
くことにより、女性で高頻度に発症すると考えられています。また、家族性が見られることから、遺伝が関与するとの報告があります。さらに、問題は変形にとどまりません。足は、立っている時に身体を支える重要な役割をしているため、足の変形は全身に影響を及ぼします。不安定な土台だと、それに支えられている上の部分がぐらぐらすることは、容易に想像できます。腰痛や肩こりの原因が、足にあるということが少なくありません。

外反母趾の治療は、手術適応となるケースがありますが、保存療法で付き合いしていく人も大勢います。その場合、足に合った靴の見直しや、足趾を広げるようなサポーターの装着、趾のストレッチなどのセルフケアが重要です。

お灸や指圧も効果的で、変形しているくの字を頂点とした辺にある大都穴・太白穴、内踝の斜め下にある骨(舟状骨)の下のくぼみで、母趾外転筋上にある然谷穴、足底の縦アーチを作るのに重要な役割を果たしている後脛骨筋上で、内踝から

指4本分上に位置する三陰交穴などが、よく使われるツボです。これらのツボは、あぐらをかいた姿勢で探すと見つけやすいです。また、足の不調以外では、大都穴・太白穴は消化器症状に、然谷穴・三陰交穴は、婦人科系疾患に対しての治療ポイントでもあります。

足の健康は身体全体の健康につながり、快適な生活を送るうえで大切です。自分に合った靴を選ぶ、足趾まで意識して歩く、というような基本的なことに加え、お灸や指圧でケアをして、足の健康を維持しましょう。



東洋医学総合研究所 漢方鍼灸治療センター 外来案内

漢方科 2022年10月1日～						
	月	火	水	木	金	
午前	花輪 <sup>①</sup> 星野 石毛 三橋 [コロナ後遺症外来] 森(裕)★	花輪 鈴木 森(裕) [コロナ後遺症外来] 石毛★ [冷え症外来] 伊藤(剛) <sup>②</sup>	花輪 川鍋 石毛	花輪 小田口 川鍋 森(瑛)	伊藤(剛) 鈴木 星野 森(裕)	小田口 <sup>③</sup> 及川 <sup>③</sup> 鈴木 <sup>③</sup> 星野 <sup>③</sup> 森(裕) <sup>③</sup> 川鍋 <sup>③</sup> 石毛 <sup>③</sup>
午後	森(裕) 川鍋 [冷え症外来] 鈴木*	伊藤(剛) 鈴木 伊東 三橋	星野 川鍋 石毛	小田口 五野 [コロナ後遺症外来] 川鍋★ <sup>*</sup>	星野 森(裕) 伊東 [コロナ後遺症外来] 鈴木★ <sup>*</sup>	

休診日：日曜日・祝祭日・年末年始(12/29～1/3)  
ホームページ：http://www.kitasato-u.ac.jp/touei-ken/

鍼灸科 2022年10月1日～						
	月	火	水	木	金	
午前	伊藤(剛) 石原 小山	柳澤 井田 石原	石野 井田 石原	伊藤(剛) 伊藤(雄) 小山	伊東 近藤 石原	伊東 <sup>⑤</sup> 井田 <sup>⑤</sup> 伊藤(雄) <sup>⑤</sup> 近藤 <sup>⑤</sup>
午後	井田 近藤 石原 小山	伊藤(雄) 近藤 石原	伊東 伊藤(雄) 近藤 石原	井田 伊藤(雄) 近藤 小山	伊藤(剛) <sup>④</sup> 井田 伊藤(雄) 石原	伊東 <sup>⑤</sup> 井田 <sup>⑤</sup> 伊藤(雄) <sup>⑤</sup> 近藤 <sup>⑤</sup>

※黒字は男性医師または男性鍼灸師  
赤字は女性医師または女性鍼灸師  
※専門外来では一般の患者様の診療も行っています。  
※★印はコロナ後遺症外来  
※黒岩鍼灸師は休診中

- ① 月曜日午前の花輪医師の外来は、初診の方のみとさせていただきます。
- ② 火曜日午前(第1・3)の伊藤(剛)医師の冷え症外来は、初診のみとさせていただきます。
- ③ 土曜日の外来は、交代制となります。スケジュールはホームページまたは予約電話へお問合せください。
- ④ 金曜日午後の伊藤(剛)医師の外来は、毎月第1、2、3金曜日のみとさせていただきます。
- ⑤ 土曜日の外来は、交代制となります。スケジュールはホームページまたは予約電話へお問合せください。

予約電話：03-5791-6169  
(月～金) 8:30～11:00  
及び  
12:00～16:00  
(土曜日) 8:30～11:00  
その他のお問い合わせ  
代表：03-3444-6161

初診受付時間		
漢方科	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～10:30	8:00～10:30
午後	12:50～15:00	

鍼灸科		
	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～10:00	8:00～10:30
午後	12:50～14:30	14:00～14:30

再診受付時間		
漢方・鍼灸	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～11:00	8:00～11:30(鍼灸) 8:00～12:00(漢方)
午後	12:50～15:30	14:00～15:30(鍼灸)

漢方ドック	
月～金曜日(予約制)	
9:00～15:30	



WEBサイト